

町政報告 (要約)



平成30年第2回町議会定例会が6月20日に招集され、報告1件、議案7件、陳情1件、意見案1件が審議され、翌21日に閉会しました。

そのあらましについてお知らせします。

はじめに

毎年度の政府の予算編成や重要政策に反映される「経済財政運営と改革の基本方針（『骨太の方針2018』）」の原案が、去る6月5日公表され、来る6月15日に閣議決定される見通しであると報じられています。

平成30年度までを経済・財政集中改革期間と位置付けた「経済再生なくして財政健全化なし」の基本方針を堅持し、

①平成31年10月の消費税率10%の引き上げ実現と、その影響を

避けるための経済対策
②社会保障費の自然増の抑制と給付と負担の適正化

③地方一般財源総額の平成30年度「実質的同水準の確保」と、地方交付税の改革努力等に応じた配分強化の検討

④幼児教育・保育の無償化を平成31年10月に前倒し実施などを掲げております。

国の平成31年度予算概算要求時期を迎えている現在、政府の「骨太の方針2018」の具体的な決定内容がどのように反映されるのか、また、当町における今年度の地方交付税交付金算定方法との対比など、いずれも、明年度以降の地方自治体の財政負担の増大と行政施策の都市と地方や自治体間の格差拡大が懸念されるところであり、安定的・自立的な行財政運営を確保推進するうえで、今後の同方針の動向に大きな関心を寄せていかなければなりません。

町政報告

平成29年度各会計決算の概況

影響大きい交付税の減額

平成29年度の各会計決算については、出納閉鎖を経て会計管理者の下で、監査委員の審査に付するための整理作業中でありますが、その見込みについてご報告申し上げます。

一般会計では、特別交付税の3月交付分などにより歳入額が確定するとともに、第1回議会定例会で補正予算措置をした各基金への積立を行いました。

これらの結果、一般会計については、歳入総額29億5,740万9千円、歳出総額28億5,767万5千円、翌年度に繰り越すべき財源2,932万5千円、差引収支額7,040万9千円の決算見込みです。

また、6特別会計は、一般会計から総額2億7,541万7千円（前年度2億8,849万円）の繰入れを行い、歳入歳出総額ともに6億9,559万1千円の決算見込みです。

なお、出納閉鎖期での各種基金残高は、年度中積立額6,032万円、同取崩し額4,621万8千円、差引総基金残高（備荒資金ほかを含む。）は、14億1,502万8千円（前年度14億9,226万6千円）です。簡易水道事業、下水道事業、産業交流雇用対策推進事業など各特別会計における収支は、一般会計からの多額の赤字補填により収支均衡を維持し、赤字の発生を回避している状況が続いています。

また、一般会計の本年度実質収支から昨年度実質収支を差し引いた単年度収支については、地方交付税の大幅な削減の影響により、累積赤字を解消した平成22年度以降で最も大きな赤字額となる見込みであり、一般財源の縮減に伴い財政運営全般に深刻な影響を及ぼしています。

従って、今後の行財政運営における課題やその方策検討の重要性については、これまでにも増して議員各位並びに町民の皆さんとの認識の共有に努め、「健全財政の維持」と「公共・行政サービス水準の維持向上」と「町の活性化と振興」という三つの



課題の両立と克服を基本とした
行財政運営に努力してまいりま
すので、引き続きご理解とご協
力をお願い申し上げます。

後志総合開発期成会要望 活動

後志総合開発期成会（会長：山本共和町長、構成：後志管内1市19町村）は、去る5月22日及び25日に北海道開発局や北海道など道内関係機関へ、また、6月1日には中央府省庁及び衆参国会議員会館へ出向き、国の平成31年度予算編成に向けた後志管内20市町村の農林水産業や観光産業の振興、交通ネットワークの形成、国土基盤整備、生活環境の改善及び保健・福祉・教育の振興など7分野62項目122事業の要望活動を山本議長とともにに行ってきました。

所属部会の水産部会としての提言要望事項は、小樽地区漁業協同組合長会からの要望事項を含む、計画的な漁港・漁場整備、漁家経営の安定化、海獣類被害対策、密漁防止対策及び水産資源の生育環境保全など主要7項目24事業ですが、うち重点要望の2項目として、

①藻場造成等による磯焼け対策や水域の監視活動などを支援する国の「水産多面的機能発揮対策事業」の継続

②トド、アザラシ等の海獣類による漁業被害の補償等に対する支援制度の創設、強化網の導入・更新等に対する国費継続支援及び駆除・追払い事業の駆除枠の拡大

について強く要望してきました。

当町としても後志総合振興局、漁協、系統機関等と連携して、日本海漁業の地域事情とその窮状を訴えるとともに、その対策の具現化に引き続き努力します。

北海道新幹線建設促進等 運動

去る5月22日、小樽市において「北海道新幹線建設促進後志小樽期成会」総会が開催され、新函館北斗・札幌間の早期完成、青函共用走行問題の早期解決などの要望活動を引き続き展開していくことが確認されました。

また、同日、小樽市において、「北海道横断自動車道黒松内・小樽間建設促進期成会」総会が

平成 29 年度 各会計決算概況（見込）

（注）計数は、四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。（単位：千円）

			A		B		C	D	E
			歳入総額	うち繰入金	歳出総額	うち繰出金	(A) - (B) 歳入歳出差引	翌年度に繰り 越すべき財源	(C) - (D) 実質収支
一般会計			2, 957, 409	—	2, 857, 675	275, 417	99, 734	29, 325	70, 409
特別 会 計	簡易水道事業		192, 512	89, 135	192, 512	—	0	0	0
	国民健康 保険事業	事業勘定	192, 777	55, 622	192, 777	—	0	0	0
		直診勘定	74, 715	22, 000	74, 715	—	0	0	0
	下水道事業		55, 191	45, 754	55, 191	—	0	0	0
	介 護 福 祉 サービス事業		32, 365	15, 228	32, 365	—	0	0	0
	産業交流雇用 対策推進事業		111, 321	32, 192	111, 321	—	0	0	0
	後期高齢者医療		36, 710	15, 486	36, 710	—	0	0	0
特別会計 計			695, 591	275, 417	695, 591	—	0	0	0
合 計			3, 653, 000	275, 417	3, 553, 266	275, 417	99, 734	29, 325	70, 409

開催され、小樽ジャンクションのフルジャンクションでの早期完成、「余市・小樽間」の早期開通、倶知安・余市道路の早期開通、北海道新幹線の札幌延伸等を勘案した「黒松内・倶知安間」の整備調査の促進などを併せて要望していくことが確認されました。

一方、北後志地域においては、去る4月16日、北後志1市5町村の自治体と26の経済産業団体等で構成する「高速で行こう!!」北しりべし地域魅力発信協議会（会長・嶋余市町長）が開催され、高速道路の余市インターチェンジの開通年度として、北しりべし地域の魅力を積極的に発信し、開通後の北しりべしエリアへの人の流れを生み出すための取組等について協議されました。

開催し、延べ27人の出席をいただき、検討中の計画概要案として、①これまでの経緯、②今後の取組の概要案、③協力をお願いしたい事項を説明し、意見交換を行いました。

また、同月23日付けで、日司自治会より、今後の建物実施設計作業に際しての地元意見の集約と検討のための「日司生活改善センター老朽化対策事業検討委員会（佐藤一義代表・構成4団体17人）」を設置したとの報告がありました。

今後は、町、設計委託業者及び同検討委員会において、室面積及び室配置等計画案の具体化に向けた検討協議を重ねていきます。

ふるさと納税寄附金 2力年総額1億1,100万円

平成28年7月より返礼品取扱いは開始した、ふるさと納税の状況は、6月13日現在、返礼品取扱参加事業者は、8事業者、48品目で、平成29年度ふるさと納税寄附金件数及び金額は、2,120件、6,410万2千3百円、2力年累計総額は、1億1,100万2千3百円です。

引き続き、参加事業者の拡大のため、町内産業経済団体及び個人事業者に対し参画の啓発をしていきます。

移住定住促進住宅用地の応募状況

分譲地12区画について募集していたところ、1件の申請があり、去る6月7日に所有権移転登記等の事務手続を終えました。

なお、分譲地11区画については、引き続き随時募集のPRなど周知に取り組めます。

まちづくり活動支援基金補助金

平成29年度実施事業報告会は、去る5月15日開催され、3団体4事業について、実施団体の代表者が出席して事業成果の発表と、事業選定委員会委員による各事業への取組成果などについての質疑が行われました。また、平成30年度の第1次事業募集には、地域づくり支援事業（ソフト事業）に2団体から3事業の応募があり、同日、同委員会による応募団体からの計画事業内容の説明聴取と審議が行われ、同日付けで同委員会の意見が付された答申がありましたので、その答申に沿って2団体3事業について補助金の交付を決定し、その旨を通知しました。（7ページ参照）

税務課関係

平成29年度町税及び税外収入金の収納状況

一般会計（町民税ほか4税）については、現年度分、滞納繰越分を合わせ、調定額1億9,555万3千円（前年度1億9,776万4千円）、収入済額1億7,266万6千円（前年度1億7,062万4千円）、収納率88・30%（前年度86・28%）の決算見込みです。

次に、国民健康保険税については、現年度分、滞納繰越分を合わせ、調定額1億2,766万9千円（前年度1億2,696万8千円）、収入済額9,080万6千円（前年度8,720万5千円）、収納率71・13%（前年度68・68%）の決算見込みです。

現年度の調定額は、漁業関係の所得の増加により前年度を約277万円上回っており、収納率については、後志広域連合への引継ぎや現年度分の重点的な徴収取組の効果もあり、現年度分、滞納繰越分を合わせた収納率は、前年度を2・45ポイント上回り、収入未済額は約269万円圧縮しています。

町税については、現年度調定額が、前年度を約364万円上回っていますが、これは、漁業関係所得の増加により、町民税の調定額が約337万円伸びたことが主な要因です。

なお、現年度分、滞納繰越分を合わせた収納率は、前年度を2・02ポイント上回り、収入未済額については、前年度より約

企画課関係

日司生活改善センター老朽化対策事業

初の説明会と設計着手
去る5月15日、日司自治会、みなと保育所父母の会及び地区関係団体を対象とした説明会を

税外収入（児童福祉費負担金ほか22科目）については、現年度分、滞納繰越分を合わせ、調定額1億8,691万6千円（前年度1億9,058万8千円）、収入済額1億4,168万4千円（前年度1億4,040万3千円）、収納率75・80%（前年度73・67%）の決算見込みです。

町の貴重な自主財源である税



及び税外収入の確保は、極めて重要な課題でありますので、督促状や催告書の発付をはじめ、特に出納閉鎖期に向けた全庁的な特別徴収対策を実施して、IP放送による納付の督促、電話催告、臨戸訪問の強化等により収入の確保に努めました。

一方で、特別な事情で一度に納付することが困難な方については積極的な納付相談により、計画的な納付につなげてきたほか、後志広域連合等への徴収事務引継ぎによる強制徴収などにより滞納の防止と縮減に努めました。

住民福祉課関係

放課後児童健全育成事業の

実施状況

前年比延237人増

当町独自の子ども子育て支援対策である同事業の実施状況は、コーディネーター及びサポーター6人、利用児童31人（前年度比7人増）が登録され、4月9日から開始し、5月31日現在の延べ利用者数は415人（同比237人増）、開設日数は32日間、1日当たり平均利

用者数は13人で、B&G海洋センター等を会場に実施しています。

引き続き、保護者の就労機会の増大に対応した放課後児童の安心・安全な居場所づくりと、学習活動やスポーツ・文化活動の機会の提供等に努めます。

北海道社会事業協会小樽病

院の分娩再開

9月から本格取扱

分娩再開に向けた施設改修及び備品整備等は、去る3月24日完了し、新しく着任した黒田産婦人科主任医長をはじめ常勤医師2人と非常勤医師2人の4人体制により、4月から2年9カ月ぶりに分娩を再開し、本格的な分娩の取扱いは9月以降の見込みとなる旨、説明を受けています。

「憩の広場」整備事業の

実施状況

8月中旬完成予定

平成28年度から継続事業の本年度の整備計画は、幼児用の小型コンビネーション遊具、鉄棒、四阿（あずまや）等の整備で、6月8日工事を発注し、8月中

旬完成を目指して準備を進めています。

救急ボタン配付事業の実施

状況

124世帯へ配付完了

平成29年度の実績は、124世帯、155人から申請があり、各世帯へ配付しました。すでに救急搬送時に「救急ボタン」が活用された事例が北後志消防組合積丹支署より報告されており、引き続き周知・啓発に努めます。

地域密着型特別養護老人

ホーム入所等の状況

浴場延2,024人利用

5月末現在、定員の29人（積丹町23人、町外6人）が入所しており、同月末の待機者数は14人（積丹町11人、町外3人）との報告を受けています。

また、「ゆうるり」に併設されている公衆浴場「いこい」の平成29年度利用状況は、開湯日数145日で延べ2,024人（1開湯日当り14人）との報告を受けています。

平成30年度積丹町敬老会

9月20日開催

去る5月24日、平成30年度積丹町敬老会打合せ会議が開催され、本年度も自治会等連合会、民生委員協議会、老人クラブ連合会、女性団体連絡協議会で構成する敬老会実行委員会（実行委員長・鎌田自治会等連合会長）を組織し、来る9月20日（木）に総合文化センター交流大ホールにおいて、敬老者の長寿を祝い、町の振興発展に尽くされたご苦労に敬意を表する催しを行うこととしました。

本年度の対象者（75歳以上）は、6月1日現在、577人（前年度598人、21人減）で、準備を取り進めています。

保育所関係

保育所の運営状況

みなと保育所の改修

6月1日現在の入所児童数は、びくに保育所で22人（前年度比2人減）うち新入所児童数は6人、みなと保育所では9人（前年度比2人減）うち新入所児童数は1人です。

一時預かり保育事業は、延べ

6人の利用となっています。
 みなと保育所については、建設後26年が経過し、木造建物内外の老朽化が進行している状況にあることから、特に急がれる屋根、外壁の老朽化対策に着手するため、所要の経費に係る補正予算案を本定例会に提出しました。

子育て支援センターの運営状況

5月末現在の利用者は、延べ158人（前年度比5人減）、1日平均4人で、引き続き、利用者が気軽に立ち寄り、子育てに関する情報の交換や、交流の場として利用しやすい施設運営の充実に努めています。

国保診療所関係

平成29年度運営状況

外来患者数は、延べ6,222人（前年度比434人、6.5%減で、1日平均26人（同2人減）です。

また、患者送迎バスの運行については、98日間運行で758人（前年度101日間運行で

965人、前年度比207人、21.5%減）で、1日平均7.7人（前年度比1.8人減）です。運営収支の決算見込みについては、歳入及び歳出ともに7,471万円（前年度比353万円増）で、一般会計からの繰入金（赤字額）は2,200万円（前年度比385万円増）の見込みです。

商工観光課関係

町内の観光施設の利用状況

「岬の湯しやこたん」、「水中展望船」及び「しやこたん土産と喰い処カムイ番屋」は、4月から本年度の営業を開始しておりますが、天候不順の影響により利用客は各施設とも低調な推移となっています。

産業交流雇用対策推進施設（岬の湯しやこたん）の決算見込み

赤字補填3,219万円

平成29年度の入館者数は7万9,150人と前年度より2,544人（3.1%）減少し、また総収入額についても、軽食

の売上げが減少したことなどにより、前年度を44万9千円（5.5%）下回りました。その結果、収支の赤字補填のための一般会計繰入見込額は、3,219万2千円（前年度比357万2千円増）となりました。

産業会館移転計画に伴う跡地利用の検討

商工会から要望書

去る5月15日開催された積丹町商工会総会において、①旧新おたる農協積丹事業所の建物及び土地を無償で取得すること。

②商工会事務所を含む産業会館機能を旧新おたる農協積丹事業所へ移転すること。

③産業会館建物及び敷地については、売却などにより処分すること。

に関する議案が可決され、同方針が機関決定されました。

この機関決定を受けて、去る5月30日、正副会長が来庁され、町に対して、現在の産業会館の建物及び敷地の財産処分に関して、建物の解体とその後の敷地の有効活用策の検討についての

要望書の提出がありました。

町としては、現産業会館の老朽化の現状、旧新おたる農協積丹事業所の閉鎖に伴う補助金施設としての同建物等の有効利用に係る、新おたる農業協同組合と同商工会との検討協議の経過、また、昭和50年度の同会館建設時の道・町の助成支援事業の状況等と併せて、町への要望の趣旨を十分勘案して、町の対応の課題整理と同会館敷地の立地を踏まえた同敷地の跡地利用の方策の方向性の検討を急ぎ、その状況を議会へ報告したいと考えています。

観光地美化清掃事業増額修正実施

国定公園内の海岸景観の保全に資するため、それまでの町単独事業の財政負担の軽減を図るため、平成25年度からは国の海岸漂着物等地域対策推進事業補助金を活用し、継続実施してきました。

本年度においても、国の海岸漂着物等地域対策推進事業補助金を活用して、町の財政負担の軽減を図るべく同補助金の採択を北海道へ要望しておりました

が、去る5月7日付けで補助内示を得ましたので、海浜地のゴミの収集・処理と併せて本事業を実施するため、所要の経費に係る補正予算案を本定例会に提出しました。

自然環境保全協力金

11年間で1,782万円

積丹町自然公園環境保全協議会（会長・佐藤観光協会会長、構成・町及び町内産業経済6団体）の総会は、去る5月16日に開催され、昨年度の協力金総額は242万9千295円、平成19年から11年間の累計額では1,782万9千97円となり、平成29年度は、協力金広報プレートや募金箱の製作費等に活用した旨の報告がありました。

平成30年度は、啓発看板等の製作や施設補修用資材の購入などの事業が計画されています。

ご協力をいただいた道内外の多くの皆様方の善意に、心から感謝を申し上げます。

地域観光資源を活用したPR活動

さくらます祭りがで表彰

積丹観光協会と「余別・海日



▲第5回どっこい積丹・さくらます祭り

UGくみたい（澤貴幸会長・会員101人）が協働、連携した春の観光誘致イベント「どっこい積丹・さくらます祭り」が、4月20日から5月20日にかけて実施されました。

期間中は、地元飲食店等によるサクラマス料理の提供とスタンプリー、また、5月19日にはサクラマスサンクチュアリーセンター周辺を会場にイベントを開催しました。

当町の漁業資源「さくらます」の新たな観光資源化を目指し、引き続き観光業者と漁業者との連携強化による地域の活性化への貢献に期待を寄せています。

また、この取組は、道内他地

域への波及やモデルとなることなどが高く評価され、来る7月3日開催予定の「北海道マリンビジョン21コンテスト2017表彰式（札幌市）」において、優良賞を受賞することが決定されました。

関係者のこれまでのご尽力に対し、深く敬意と感謝を申し上げます。

積丹ソーラン味覚祭り

今年で13回目を迎える「積丹ソーラン味覚祭り」は、来る6月24日開催に向けて、現在、実行委員会及び関係者が準備を進めています。

また同日は、神威岬灯台点灯130周年記念事業として、小樽海上保安部による神威岬灯台一般公開が予定されています。

農林水産課関係

農業の概況

春の雪解けは、平年並の状況にあり、馬鈴薯、カボチャ、ミニトマトの植付け作業は概ね例年並みに進んでいます。

新おたる農業協同組合通常総代会は、去る4月13日開催され、平成29年度事業報告及び平成30年度事業計画が承認されました。

また、同月27日には、かねて建設中のミニトマト集出荷貯蔵施設竣工式が挙行されました。

この施設の完成により、労働力不足の課題解決のための共同選果体制の構築と、センサーを活用した糖度・軟化・規格・等級の自動選果による高品質化により産地間競争を乗り越え、消費者から支持されるトップブランド産地の形成強化が期待されています。

町営牧場の見直し

川上・婦美二地区

昨年度に引き続き今年度においても、美国川上地区及び婦美二地区いずれの町営牧場も入牧利用者が無い状況にあります。

こうした状況から、議会産業建設常任委員会でのご意見や農業委員会、農業協同組合等関係機関及び関係団体等の意見をも踏まえて、今後の町営公共牧場の管理運営と活用方策のあり方について、現在、検討を続けています。

治山事業

来岸地区避難路に着手

道小規模補助治山事業による来岸地区防災避難路整備等事業は、5月30日に実施設計に着手し、実施設計完了後の9月下旬着工の予定です。

道営事業の美国小学校裏復旧治山継続工事は、平成29年度繰越予算により既に着工しており、雪崩予防柵、伏工など12月10日の完成を目指して施工中です。

漁業の概況

前年比215t、1億600万円増

平成29年度の積丹町管内の水揚げ実績は、ブリ、イカが豊漁となり、その他の魚種は減少傾向が続いている状況にあります。が、前年比215トン（9・2％）増、2億4,152万円（18・3％）増という状況でした。

本年5月末現在では、ホッケ、タコ等が好調で、472トン、約2億773万円（前年比1億661万円、105・4％増）との報告を受けています。

去る3月28日開催の東しゃこ

たん漁業協同組合臨時総代会では、基幹事業の販売事業が24億円（計画に対し、32億円（8億円、33・3％増）となる見込みとの報告がありました。

また、平成30年度事業計画では、前年度の実績見込みを踏まえ、27億円の販売事業取扱高を見込んでいます。

資源増殖関係事業

サケ放流事業は、去る4月16日から25日にかけて、真狩村の日本海さけ・ます増殖事業協会ふ化場で生産された稚魚50万尾を美国川に、京極町産で美国漁港内での海中飼育稚魚100万尾をそれぞれ放流しました。

また、積丹川には真狩村産200万尾を4月14日に放流し、うち約1万尾を余別新川で試験実施している水産資源回復対策事業による二次飼育池で同月14日から12日間馴致飼育し、同月26日夜間に放流を完了しました。

ニシン放流事業は、去る6月4日、羽幌町の栽培漁業振興公社で生産された稚魚を美国漁港

に4万9千尾、余別漁港（来岸地区）に4万9千尾、合計9万8千尾を放流しました。

漁港整備事業

美国漁港北防波堤先端部の消波ブロック据付工事が7月13日の完成を目指して施工中です。

また、余別漁港（来岸地区）島防波堤補修工事は、消波ブロック及び石かごを製作中で、据付工事は、11月19日完成予定です。

昨年12月被災の幌武意漁港北防波堤先端部の突堤災害復旧工事は、既に着工しており、10月30日完成予定です。

建設課関係

建設工事等の発注状況

総契約2億2,808万円

6月4日現在における建設工事の発注状況は、土木関係1件、建築関係5件の計6件、工事契約金額1億4,245万2千円で、多茂木団地建設工事の建築主体工事・電気設備工事・機械設備工事、島武意通り線改良工事、日司地区旧教職員住宅解体

工事、野塚浄水場屋根防水改修工事が現在施工中であり、今後、憩の広場整備工事が着工する予定です。

委託業務は、土木関係5件、建築関係5件、地籍関係1件の計11件、契約金額8,526万4千円で、下中山橋・草内橋修繕実施設計委託業務、橋梁個別設計画策定委託業務、船瀬4番線舗装修繕実施設計委託業務、補助小規模治山事業実施設計委託業務、町道草刈委託業務、多茂木団地建設工事監理委託業務、日司地区災害時援助施設建設実施設計委託業務、日司地区支障物件調査委託業務、美国小学校放射線防護対策工事実施設計委託業務、美国小学校屋内運動場非構造部材耐震改修実施設計委託業務、積丹町地籍調査事業委託業務が現在実施中です。

これにより、工事と委託業務を合わせた総契約件数は17件、総契約金額は2億2,809万6千円です。

今後、7月上旬を目途に、町道維持補修工事、美国小学校職員トイレ改修工事、簡易水道量水器取替工事の発注を予定して

います。

美国川河川改修事業 築堤・護岸工事進む

今年度は、平成29年度予算繰越事業として、国道新橋から下流左岸（柳町地区）の築堤盛土工事が6月から着工されるほか、海面への濁水流出等を考慮し、新国道橋下流両岸の護岸整備工事は、11月からの着工が予定されています。

また、平成30年度通常予算による国道新橋から上流部の河道拡幅工事や美国堤防通り線付替工事の施工計画が検討されており、同計画が決定しだい、工事地域説明会を開催したい旨の説明を受けています。

また、昨年度、北海道が町道の機能補償事業として実施した町道左坂通り線（寺町地区）付替工事において、施工完了後に同道路敷地の一部に国（北海道財務局）所有の未処理用地が所在することが判明したため、当該町道路線の町への引渡しが未了となり、結果として同町道の供用開始が出来ない状況が現在も続いており、所管の北海道小樽建設管理部に対して善処を要

請してきました。

この度、北海道と国との当該未処理用地の取扱手続に係る協議が整ったことから、町が北海道との補償協定措置により当該国有地の直接売り払いを受け、既に完成している同町道の早期供用開始を確保するため、係る所要の経費について本定例議会で補正予算を講ずることとしました。

簡易水道老朽配水管等更新事業

余別地区老朽配水管更新工事及び監視用電気機械計装設備等の更新工事について、採択要望中の国費交付金の増額内示が、去る5月21日付けであったので、計画事業の進捗を図るため、工種の振替及び財源更正を含む所要の経費に係る補正予算案を本定例会に提出しました。

入舸地区地籍調査事業

去る4月20日に住民説明会を開催し、今年度の事業計画内容を説明しました。

5月から市街地の復元測量を実施しており、8月を目途に相

続者を含む土地所有者の立会による土地境界確認を予定しています。

道路事業

道道野塚婦美線、野塚冷水の沢川を横断するボックスカルバート恒久対策工事は、去る4月22日、野塚町内会に対し北海道小樽建設管理部から工事施行計画の説明があり、道道迂回路造成工事は、5月10日着工しています。

今後、ボックスカルバート本体工事は、7月中旬着工し、道道供用開始は、ボックスカルバート本体工事完成後の12月下旬が予定されています。

道道船瀬美国港線の美国小学校及び美国中学校前から両校グランドに沿った約315m区間の歩道部補修工事が、7月から11月を工事期間として予定されています。

工事期間中の通学路安全確保対策のための協議を、関係機関と進めます。



教育行政報告 (要約)



（十河 昌寛 教育長）

学校教育について

去る4月6日、小学校3校及び中学校で入学式が執り行われ、小学1年生7名と中学1年生6名が入学しました。入学後2カ月が経過した現在では、入学時の緊張感がほぐれ、元気に学校生活を送っています。

また、入学後初の大きな学校行事である運動会・体育大会が5月26日の美国小学校運動会を皮切りに、6月3日までにすべての学校で行われました。

児童生徒は元氣いっぱい各競技に参加し、これまでの練習の成果を充分に発揮していました。

保護者並びに地域の方々は、事前準備や当日の運営へのご協力、競技への参加や温かい

英語専科教員の配置

声援など、学校と地域が一体となり運動会を盛り上げていただいたことに感謝とお礼を申し上げます。

新学習指導要領が平成32年度から実施されるにあたり、本年度から移行期間が始まり各小学校では「外国語」及び「外国語活動」については、各小学校とも移行後の年間授業時間数を確保できるよう実施しています。

また、先に道教育委員会に申請していましたが英語専科教員の加配措置が承認されたことから美国小学校に専科教員を配置し、各小学校にも出向いて順調に授業を進めています。

外国語指導助手（ALT）の配置

町内小中学校での英語の授業及び国際理解教育等の充実を図るため、平成23年度から外国語指導助手の配置を行ってきたところですが、今年度も引き続き外国語指導助手を配置しました。

今年度は、昨年度のサリバン・シャナゲイル氏に代り、ベクトル・リチャード・デロン氏（アメリカ合衆国オクラホマ州・男性・23歳）が、美国中学校での全学年の英語の授業や小学校の外国語活動を行っているほか、運動会などの学校行事にも積極的に参加しています。

また、積丹町放課後児童健全育成事業も、子どもたちへ気軽に実用的な英会話に接する機会を設けたり、各戸に設置されているIP電話を活用した町民向け実用英語ワンポイント講座の放送など、外国語指導助手の協力により国際理解教育を進めています。

平成30年度全国学力・学習状況調査

去る4月17日に美国、日司、余別小学校の6年生15名と美国中学校の3年生16名を対象とした全国学力・学習状況調査を実施しました。

今年度は、国語、算数（中学生は数学）、理科の3教科についての調査を行い、各校の自己採点による調査結果の速報では、前回と比較して正答率が小学校では低下し、中学校では上昇したとの報告を受けています。当町においては、年度によって多少の増減はあるものの、近年は改善傾向にあります。

なお、詳細な調査結果については、今秋以降に全国・全道の結果とともに公表される予定となっており、調査結果を検証し、今後の各校における学習指導や学習状況等の改善に役立てるものとしていきます。

美国小学校における複式学級

美国小学校では、平成30年度から一部の学年において複式編制となる予定でしたが、1年間に限って町費による臨時教員を

配置して全学年を単式学級で編制するとともに、複式授業の試行や複式校における学校行事等の視察など、円滑な複式編制への移行に向けた取組を進めています。

臨時教員の配置に当たっては、全道的な教員不足から臨時教員の確保が懸念されていましたが、予定どおり全学年単式学級での編制により教育課程を進めています。

生涯学習について

社会教育事業における各種教室等

少年教室については、体験活動を通じて児童の健全育成を目的に、去る5月12日に第1回少年教室「春の山菜取り」を実施し、小学生11名の参加がありました。

少年教室は、野外体験や環境学習などのほか、本年度は、北海道森林管理局石狩森林管理署と連携し、8月11日「山の日」に関連した森林環境学習を計画しているところです。

また、子どもたちの安心・安全な居場所を設けて、学習活動



▲第1回リフレッシュ学級「音楽療法体験」

やスポーツ活動、文化活動などを行う放課後児童健全育成事業も引き続き実施し、子育て支援対策の一層の充実に取り組んでいるところです。

高齢者教育については、高年齢における積極的な社会参加や余暇活動を促すことを目的に、去る5月8日に第1回リフレッシュ学級「音楽療法体験」を18名の参加を得て実施しました。

また、第2回リフレッシュ学級「研修視察」は6月13日に23名が参加して「いしかり砂正の風資料館」を見学し、石狩川河口地域の自然と歴史について学びました。

本学級は、今後、文化活動や

健康づくり講座など4回の開催を予定しており、学級員が自ら地域活動に参加していけるような学習の推進に努めます。

社会体育の振興

スポーツ活動の振興については、住民の健康や自発的・自立的に取り組む環境づくりを進めるため、去る5月10日、積丹町ふれあいゲートボール場において第34回町内ゲートボール大会（3チーム、15名参加）を開催し、また、5月18日には、積丹町B & G海洋センターを会場に第29回町内ソフトバレーボール大会（4チーム、17名参加）を開催しました。

今後スポーツを通じて気軽に健康づくりに取り組める環境整備に努めていきます。

地域コミュニティ再生事業

B & G財団の支援により実施しました「海洋センターを活用した地域コミュニティの再生に関するモデル事業」は、これまでの実績を踏まえ、更に事業の充実に取り組んでいます。

昨年試行的に実施しました「B & G受験生サポートゼミナール」では、中学校3年生を対象に学力の定着と高校受験に向けての意識向上を図るため、本年度は、実施回数を昨年度の15回から42回と大幅に増やし、去る5月17日から8名が参加し実施しています。

また、新規事業として、小学生を対象に書道を通じ、正しい文字を書くことや正しい姿勢を身に付けることを目的とした「B & G書道クラブ」を6月1日から全38回の日程で実施し、町内小学校3校の1年生から6年生までの25名が参加しているところです。

「家でも学校でもない第三の居場所づくり」事業

平成30年第1回積丹町議会定例会で申し上げました「家でも学校でもない第三の居場所づくり」事業については、B & G財団に事業採択を申請し、計画内容について財団内において審査が進められているところです。

海洋性レクリエーション指導員養成研修への派遣

B & G財団では、地域の「B & G海洋センター施設」を拠点として、海洋センター所在自治体の幅広い地域活性化に関する業務を担うにふさわしいB & G指導員の養成研修を実施しており、指導体制の強化と職員の資質向上を目的とした町職員研修の一環として、この度、職員1名を派遣しました。

なお、研修期間は、6月5日から7月5日までの30日間、沖縄県で実施されています。

審議された案件

報告第1号

平成29年度積丹町一般会計予算繰越明許費繰越計算書について

放射線防護対策事業、分収造林事業、入舸地区地籍調査事業及び島武意通り線道路改良事業予算の繰越報告。

(報告)

議案第1号

積丹町職員の給与に関する条例の一部改正について

町職員の住居手当支給要件適用除外規定の一部を、「積丹町職員の住居手当に関する規則」に委任する改正。

(原案可決)

議案第2号

積丹町過疎地域自立促進市町村計画の変更について

積丹町過疎地域自立促進市町村計画の一部を変更について、議会の議決を求めるもの。

変更内容は、日司漁港上架施設棧橋整備事業ほか7事業を追加。

(原案可決)

議案第3号

辺地総合整備計画の変更について

辺地総合整備計画の策定について、北海道知事との事前協議が整ったので、議会の議決を求めるもの。

変更内容は、日司生活改善センター老朽化対策事業及び日司みなと保育所改修事業の追加、余別簡易水道老朽管更新事業辺地対策事業債の増額。

(原案可決)

議案第4号

平成30年度積丹町一般会計補正予算(第3号)

総合文化センター改修工事、光伝送線路等移転工事、みなと保育所改修工事など3,519万6千円を追加し、29億1,032万9千円にするもの。

(原案可決)

議案第5号

平成30年度積丹町簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)

余別地区老朽管更新工事など1億307万円を追加し、2億7,352万7千円にするもの。

(原案可決)

議案第6号

平成30年度積丹町国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)

事業勘定…職員人件費など61万1千円を追加し、1億4,191万5千円にするもの。

直診勘定…職員人件費24万2千円を減額し、7,577万6千円にするもの。

(原案可決)

議案第7号

公有水面埋立てについて

小樽開発建設部が、第3種美国漁港特定漁港漁場整備事業計画に基づき、同漁港現有荷捌所前マイナス3.0m岸壁を、マイナス4.0m屋根付岸壁に改良施工するため、同漁港泊地の埋立が必要となることから、北

海道知事から地元市町村長への意見聴取の照会があり、同意見書の知事への提出のため、議会の議決を求めるもの。

(原案可決)

陳情第1号

障害児者の生きる基礎となる「暮らしの場」の早急な整備を求める意見書を国に提出することを求める陳情書

(採 択)

意見案第1号

障害児者の生きる基礎となる「暮らしの場」の早急な整備を求める意見書

(原案可決)